

令和3年度岡崎市環境審議会自然環境部会（第1回） 会議録

1 開催日時

令和3年11月15日（月）午後2時から午後3時まで

2 開催場所

岡崎市役所東庁舎7階701会議室

3 内容

- (1) 生物多様性おかげき戦略（以下「戦略」という。）の中間見直しについて及び戦略の実績報告について
- (2) 戦略の体系見直し（（仮称）おかげき方式2030）について及び具体的施策について
- (3) その他

4 出席委員の氏名（五十音順）

- (1) 出席委員  
浦野友一、江坂さとみ、杉山範子、鈴木芳博、渡邊幹男
- (2) オンラインによる出席委員  
香坂 玲
- (3) 欠席委員  
河江喜久代

5 説明のために出席した職員の職氏名

環境部長 柴田清仁、環境部次長兼環境政策課長 新井正徳、環境政策課環境施策係係長 森本徳恵、同主事 小澤有司

6 出席した事務局の職氏名

環境政策課副課長 古瀬川英樹、同主事 丸尾恵史加

7 議事要旨

- (1) 戦略の中間見直しについて及び戦略の実績報告について  
事務局より資料1について説明した後、質疑応答がなされた。

（渡邊部会長）

今回の見直しについて、資料1の3（4）に記載のある行動戦略については、なるべく実行が伴うものを。愛知県が発行したあいち生物多様性戦略2020は、目標を達成したものはひとつもなかった。そういうことがないように設定したい。何か質問はあるか。

(鈴木委員)

計画を色々と立てているが結果を出すのは難しいと思う。自分は長年企業で働いており、企業では結果が出せなければ会社が倒産してしまう。そのため、収益や結果を見る際はとても厳しく実施されていた。前々回の審議会で、第2次環境基本計画が策定され、前回の審議会で実務を伴う計画案が出されると思っていたが本案件になってしまった。

前回出してもらったスケジュール案を見ると、令和4年までのスケジュールが組まれている。生物多様性は気候変動とも関連してくると思うが、結果を出すということについては大変難しいテーマであると思っている。結果に結びつくような議論はいつ出てくるのか。行動戦略を見ていると所々そういうものも見受けられるが、先ほどの資料1の2(2)について、「数値目標を定める」とあるのは具体的な結果を出すために大事であると思う一方で、数字を出すのはなかなか難しいのではないかと。しかし、これをやらないと議論だけで終わってしまうことが予想できてしまう。結果を出すために具体的にどのように進めていけばいいのか、前回資料として出されたスケジュール案で、どの段階で数値目標を出すのか。今回の資料を見てもわからなかった。今ここですぐ答えを聞きたいというわけではないが、ある程度の想定はしているか。

(環境政策課)

数値目標について。どのような具体的な施策を示していくのかということとセットで考える必要があると思う。この後、これまでの計画に対しての実績報告をするが、その結果を基に、生かすべき施策や計画とそぐわない施策、改善していくべき施策を本日から検討していただきたい。

期限については、令和4年7月の自然環境部会第4回で決定したいため、数値目標についても議論を進めていきたい。

(鈴木委員)

今日からということではなく、既にスタートしているのでは。

行動戦略に書いてある具体的な行動案は、どれが数値目標に関連しているのか。そういった個別の取組テーマは、今日からではなく既にある程度整備されているのではないかと。そうでないと、次回もこの件を考えるのを先送りにしてしまうと思う。行政側は、具体的な結果を出すには既にこの質問に対する腹案をかなり早い段階で考えてほしいと思う。

(渡邊部会長)

この件については、事前に事務局とも打合せをし、先に説明してしまうが、今回の行動戦略は資料にあるとおり「おかざき方式 2030」として8つ挙げられている。これに関して、後ほど今までの数値目標の達成について説明があるが、基本

的には今回の行動戦略はかなり絞って、基本的数値目標をある程度すべて挙げられるものにしたいと考えている。本部会にいる委員の皆さまに専門的な立場から、数値目標を考えていただきたい。資料を見て分かるように8つの行動戦略が3つに分けられている。それについて次回までに、どのように進めていくのかを課題としてお考えいただきたい。これについては後ほど改めてお示しする。

なるべく「実現できる数値目標」を設定していきたい。今自分が関わっている「種と環境の保全」のようなテーマだと、保護区などの生物空間をどのように設定していくか、設定方法や設定可能な数値目標を調査しながら進めている。

愛知県でも「あいち生物多様性戦略 2030」が作られたが、作った後に「実行してください。」と我々のところに下りてくるが、実行不可能な状況が多々ある。そのため、今回の戦略に関しては、ハードルを下げるわけではないが、皆さんと実行可能な数値目標を立てていきたい。

では、資料2の説明に移る。

事務局から資料2について説明した後、質疑応答がなされた。

(渡邊部会長)

何か質問はあるか。

(香坂委員)

2点お話したい。

有機 JAS について指摘のとおりであるが、非 JAS というものもあるということと、緑の食糧戦略の中で 2050 年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積を 25% にするという国全体の目標もあるため、それに沿っている。ヨーロッパでも生物多様性と有機農業や水や土壌の保全が指摘されているため、科学的にそういった点は言及してもよいのでは。

数値目標についても、2030 年までに 30% を保護区にするという案がでている。これは、国や行政だけでは限界があるため鎮守の森のような場所や企業がもっている緑地を含んでいるということ、数値目標を検討するときに盛り込んでもらえれば。

(橋本委員)

資料2の表の見方について。目標年は2015年や2020年とあるが、成果というのは2020年度末の値とみてよいか。人数で記載のあるものは、累計の人数か1年当たりの人数か。

(事務局)

目標年が定まっているものについては目標年の成果が記載してある。例えば、2015年为目标年のものは2015年の結果が書いてある。現時点での成果も把握して

いる。なお、人数については1年当たりのものである。

(江坂委員)

子どもに対する教育の中に、3Rやごみ削減、ごみ収集については含まれているか。

(事務局)

生物多様性のみならず、3Rやごみ削減についても環境教育として行っている。

(2)戦略の体系見直し((仮称)おかざき方式2030)について及び具体的施策について

事務局から資料3以降について説明があった後、質疑応答がなされた。

(渡邊部会長)

今回の「おかざき方式」は、愛知県の施策に基づき、行動戦略を新たに見直すということで進めていきたい。行動戦略はA～Hまであり、それぞれで数値目標を設定していかななくてはならないので、次回までに、数値目標や行動戦略の内容について検討していただきたい。こちらから、専門分野を踏まえて振り分けをさせていただく。「種と環境の保全」については河江委員、「管理と保護」については橋本委員、「地域での活用」については浦野委員、江坂委員、杉山委員、鈴木委員にお願いしたい。次回までに、重点的に取り組む行動戦略の内容や数値目標を考えてきてほしい。それ以外のところで意見等あればぜひお願いしたい。

絶対に達成しなくてはならない状況ではないが、なるべく達成できる目標を設定していきたい。2030年为目标年だが行動戦略として行えるのは2028年までである。設定してから約6年間。2029年にはまとめをして2030年に公表していく流れであるため、長期間の目標ではないということも踏まえてお考えいただきたい。数値目標を設定するのは難しいが、目標がなければ絵に描いた餅になってしまう。そうすると、これまで県が行ってきた「全く達成できなかった」という状態に陥る可能性があり、それだけは避けたい。

先ほどの香坂委員からの御意見で、数値目標に関して30%を保護区にという話もあったが、基本的に様々な保護区というのは、単純に「ここが保護区ですよ」というのは無く、何か意味がないといけない。岡崎市については、資料2の「自然ふれあい地区の指定」が該当する。これのハードルが上がると環境保全地域になる。環境保全地域になると木を切るのにもかなり制約がかかってしまう。それに対して「自然ふれあい地区」は緩やかなものである。とにかくこの「自然ふれあい地区」の指定をすすめて保護区に指定される位置づけを示していかなければならない。

行政は横のつながりがないため、環境部でやるのはこの地区の指定だけであるが、例えば教育委員会の所管業務である天然記念物の指定というものがある。市内

でこの環境保全地域と天然記念物が被っているものに北山湿地がある。このように本県では天然記念物には「指定」というものしかないが、「認定」というハードルを検討している。これは、今年から国がすべての記念物に対して認定制度を設けることによるものである。認定制度は、ハードルがそんなに高くなく自推で認定を受けることができる。認定制度も活用しながら保護区の位置付けも進めていけたらと思う。例えば社寺林や工場や大学では、林があっても建物を建てる時は自由にどんどん切っていくってしまう。そういったところと協力して「自然ふれあい地区」を指定していくことで認知度を高めていき、数値目標をある程度達成していこうと考えている。こういったことも踏まえて、「地域での活用」の具体的な内容を検討していただきたい。

(3)その他

(渡邊部会長)

何かあるか。

(杉山委員)

これまでの説明を伺って少し違和感があるのは、「数値目標の達成」というところである。計画というのは、あるべき姿を描いてそこからバックキャストिंगして、何をすべきかそのための具体的な数値目標という考え方になると思う。達成できないことを恐れるというのはあると思うが、岡崎市の戦略に掲げてある将来目標、将来ビジョンに向かってたどり着くと数値目標という考え方をベースにした方がよいのでは。

現在中間地点ということであるが、変化が激しい今、将来ビジョンはこのままで良いんですね？ということが確認したい。また、実績報告で達成できていないものについて、理由が明確に分析されていて次に向けてどのように対応していくか説明していただきたい。

(渡邊部会長)

目標がありそれに向かっているのは事実であるが、愛知県と同じ失敗をしてしまっては仕方ないので、その失敗を踏まえて考えていかなければならないのが現状である。目標は既に設けてあるため、そこに向けて具体的なやり方を模索していかなければ、理想論だけで作られた計画を実行に移す際にハードルが高くなったり実行できないものが出てきてしまうことを避けたい。ただ、だからと言って実行できるものばかりを作るということではなく、皆さんにどの程度なら実行できるか、どのようにしたらそれが目指すべき目標になっていくかを検討していただきたい。事務局だけで設定してしまうと、目標だけを決めてしまって実行がそこに伴うかという問題が出てきてしまう。逆に、実行している人たちのみで考えると、実行できるものしか出てこない。双方の意見をすり合わせて、なるべ

く目標を目指し、なるべく実行が伴う折衷案を考えていきたい。  
後半のご質問について、事務局から説明を。

(事務局)

参考資料：施策実施詳細に、今まで行ってきた具体的な市の施策及びそれに対する評価・実績が書いてある。具体的な検証については、ヒアリングをしているところである。資料2の内容が要約したものである。具体的な施策についても、生物多様性に関わらない部署であっても、生物多様性に寄与するようなことも実際にやっていたりするため、更に深めていく必要があると考えている。

先ほどの御意見にあったバックキャストについて。今の戦略にも目標を立てるということが書いてある。担当者として実績を整理し、課題や目標に向かっているかを検証しているが、生物多様性というものがすぐに数字として表せることができるものではないため、2050年に目指すべき姿に向かって進められるよう、しっかりと書き込んで実施していきたい。

(鈴木委員)

成果を考えたとき、「1つ1つの行動を決めて実施する」ということはわかるが、今の段階は成果に向けた基礎の基礎というレベルで取り上げていると感じる。1つ1つの動きが最終目標に対して、どのようにつながるのか流れを掴みかねる。例えば地球温暖化対策であれば、目標値がはっきり出てくる。30~40年前の話だが、酸性雨や大気汚染等の公害が問題になった時、自分はまだ企業に勤めており多少公害を経験した。今、それらの問題はことごとく解決されている。公害についてかつて日本は先進国だったため、他国を参考に解決していくことはできず日本の力のみで解決してしまった。それだけ勢いがあったのだと思う。ただ、それをやらないと、死者や病人が増えてしまうため、必ず解決しなければならないものであり、成果目標がはっきりしていた。ただ、そこから残されたのが気候変動の問題である。これはとても難しいテーマであり、その中の一つとして生物多様性があると思う。生物多様性の問題になると成果というのが非常に漠然としてしまう。先ほど議長からも話があったが、愛知県は取り組みをしたが成果まで至らなかったというのがある。一般的な生物多様性についての定義づけが漠然としているからではないか。この問題を取り上げてなんとかしなければ、と言っても年間で何千か何百か知らないが種が絶滅していても、それが自分たちの身近な生活にどのような関係があるのかわかっていない。「30年、40年後に、この問題を解決しなければ自分たちの生命が脅かされる。」というのを今やっても、身近に感じられず深刻に受け止められない。

資料2に「成果」と書いてあるが、こんなものは成果ではない。これは生物多様性とどういう位置付けにあるのか。講座などが書いてあるが、これを成果とみなすかみなさないかで受け止め方が大きく違ってくる。「あくまで成果というのはこれだ」というものが共通認識として全員にあれば、それに対する取り組み姿勢

であることが分かる。こういう運動をした、こういう取り組みをしたというのは成果に結びつく途中経過であって成果ではない。表現が紛らわしいと思う。結果は出ていない。もう少し分かりやすくしてほしい。

先ほど議長から課題が与えられたが、こういうことをやるとこれだけ貢献することになりますという具体的なことを書かないと結果につながっていかないと思う。環境政策課からも話があったが、結果を出すのはとても難しいと思う。そういったことも正直に書いて、それに対して「前向きに取り組んでいます」という姿勢で資料を作らないと「これが成果です」と言われても結果につながっていないので、共通して全員が分かるものにしてほしい。

(橋本委員)

数値目標を考えてくれという課題を与えられたが、何かをするには当然予算が必要になり、環境部以外の事業も当然あると思う。その辺りはどのように考えて数値目標を考えてきたらよいか、要綱等いただけたらと思う。

(環境政策課)

現段階ではどんどん意見を頂けたらと思う。予算も、実行につながっていくものであり、今後示す目標像に必要であるということであれば、どのようにするか検討しなければならない。予算が必要なものであっても意見として出してほしい。

(渡邊部会長)

予算も、コロナの影響で予算がつかないという状況が続く可能性がある。

先ほどの鈴木委員の御意見で、「生物多様性が漠然としている」というのはその通りである。例えば中学校の教科書には「生物多様性とは、個性とつながりである」と書いてある。全く分からない。ただ教育現場ではこれが現状である。では、生物が死滅しないようにどうしたらいいのか。そのためには人間がいなくなるのが1番だが、そういうわけにはいかない。人間の経済活動のある程度維持しながら、生物と共存して行くことを考えていかなければならない。先進国と発展途上国ではそこにはかなりの温度差がある。そういったことも含めて生物多様性を考えていかなければならない。

生物多様性戦略を長期的に見据えて目標に向かってやっていくわけだが、「数値目標を設定しなければ絵に描いた餅になってしまう。しかし数値目標を考えたときに予算がない。」という制約がある中で、無理難題を言っているのは承知しているが、皆さんで一度色々と考えていただきたい。事務局も、どのように試行錯誤したらよいかというところの答えが出てこないので協力していただきたい。

(江坂委員)

自然環境問題はとても難しいが、何もしなければ何にもならない。私はまずゴ

ミ拾いから、ということで、環境部で教えてもらったピリカをやっている。市議も3名ほど参加されている。環境部に、ピリカの啓発活動をもう少しやってほしい。また、ボランティア用のゴミ袋はもらえないか。そういうものがもらえると、やろうと思ってくれる人が増えると思う。

先日路面清掃車を見て感動したが、それきり見かけない。稼働状況を教えてほしい。

(環境政策課)

ピリカについて。協力いただきありがたい。啓発活動は環境保全課で実施している。更に啓発活動を実施するよう意見があったと申し伝える。ボランティア用のゴミ袋についても、環境保全課で配布している。

路面清掃車については、稼働状況はわからないが市で1台しかないため、毎日稼働していてもなかなか目にすることは無いのではないかと。

環境政策課では、オオキンケイギクという特定外来生物の啓発がなかなかできていない。江坂委員の御意見を聞いて、ゴミ拾いのボランティア活動と一緒に市民参加型の物を具体的施策に書いていけたらと思う。生物多様性を示すためにも現状の把握が必要である。今、様々な企業がアプリを開発しており、愛知県でも指標種チェッカーというアプリがある。市民参加型のもので、市民科学という分野でデータの収集が必要になるため、具体的施策として考えていきたい。

普段の生活の中から考えられるものもあると思うので、生物多様性に関係ないと思うことでも、結果としてつながっていくこともあるのでそういったものを発掘していきたい。

(環境部長)

ピリカについて補足。今までは、市民の方に参加していただいてボランティア清掃を毎年夏や秋に実施していたが、コロナの影響で人を集めるということに支障があるため、直近の2年は中止していた。今後、コロナの感染状況が治まれば再開も考えており、また、集まらなくても活動ができるというピリカの普及啓発し、皆さんが楽しみながら参加していただけるようなものを検討している。ピリカを利用することによって、どこにどんなゴミが捨てられているかを分析することができるため、活かしていきたい。

(渡邊部会長)

ゴミの問題はいろんな部署にまたがった問題である。オオキンケイギクの駆除は県の環境部が予算を使って実施している事業の1つである。行政は常に市民から問われる立場にあるため、情報を集積し活用するために数値化していかないといけない。そうすれば、生物多様性に関する様々なボランティア活動についての項目を挙げた時に数値目標を立てることができる。我々だけでは、年間の活動数やどのように実施しているかが把握しきれないので、その辺りも具体的に提示し

ていただけると行動戦略が作りやすくなる。  
皆さんからのご意見の締め切りはいつか。

(事務局)

資料4に事務局案として具体的施策を記載しているので参考にさせていただきたい。ご意見は年内にお願いしたい。

自然環境部会第2回の開催は2月中旬を考えている。審議内容は、皆さんからのご意見を集約し修正等行ったものを見ていただきたいと思います。その他、市民アンケートを2月末に実施予定のため、アンケート内容も御審議いただきたい。

#### 会議資料

岡崎市環境審議会委員名簿

資料1：生物多様性おかげさ戦略の中間見直しについて

資料2：生物多様性おかげさ戦略の実績報告

資料3：戦略の体系見直し((仮称)おかげさ方式2030)について

資料4：行動戦略(重点プロジェクト)候補

参考資料：遺作実績詳細

生物多様性おかげさ戦略

あいち生物多様性戦略2030